

## 感染症リポート

第3回



## インフルエンザワクチン

## ■ 重症化の予防効果が認められています

高齢の方がワクチンを接種すると、死亡の危険が約1/5に、入院の危険が約1/3～1/2にまで減少することが期待できます。現行ワクチンの安全性はきわめて高いと評価されています。

## ■ 65歳以上が定期予防接種の対象です

重症化しやすく、特に接種意義の大きい以下の方は定期の予防接種の対象となっています。

- ① 65歳以上の方
- ② 60～64歳の方で、心臓や腎臓、呼吸器の機能に障害があり身の回りの生活を極度に制限される方。  
または、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障害があり日常生活がほとんど不可能な方

## ■ ワクチン接種による副反応

ワクチンは「不活化ワクチン」なので、接種によりインフルエンザを発症することはありません。比較的多い副反応は、接種部位の発赤や腫れ、痛みなどで、2～3日でなくなります。ただ、まれに重い副反応の報告がありますので、気になる症状がある場合は医師にご相談ください。

最近の感染症流行状況や日頃の感染対策などについて、4回にわたり発信していきます。

第3回目のテーマは“ワクチン”です。

肌寒い気温の季節になると、ちょっとした体調不良が肺炎を引き起こすこともあります。肺炎や重症化を予防するワクチンの効果についてお伝えします。

## 肺炎球菌ワクチン

## ■ 肺炎はわが国の死亡原因の第5位

日常的に生じる成人の肺炎のうち、1/4～1/3は肺炎球菌が原因と考えられています。肺炎球菌は主に気道の分泌物に含まれる細菌で、気管支炎や肺炎、敗血症などの重い合併症を引き起こすことがあります。



## ■ 65歳から5年ごとが定期接種の対象

令和5年度に65・70・75・80・85・90・95・100歳の方は、ワクチンの定期接種の対象となります。なお、定期接種対象でない65歳以上の方でも任意接種は可能です。

## ■ ワクチン接種による副反応

主な副反応には、接種部位の症状(痛み・赤み・腫れなど)、筋肉痛、だるさ、発熱、頭痛などがあります。接種後に気になる症状がある場合は医師にご相談ください。

予防接種  
健康被害救済制度  
について

定期の予防接種による副反応により、医療機関での治療が必要な場合や生活が不自由になった場合(健康被害)は、法律により定められた救済制度があります。制度の利用を希望される際は、お住いの市町村にご相談ください(制度を利用するためには、一定の条件があります)。

出典:厚生労働省、公益財団法人 予防接種リサーチセンター

「高齢者を対象にした肺炎球菌ワクチンのリーフレット(2023年度版)」「高齢者に対するインフルエンザワクチン啓発リーフレット」

地域を守る  
お医者さん

File No.034 友愛記念病院・地域連携室より連携医の先生方をご紹介します



いけがきひでゆき  
生垣 英之  
院長先生  
いけがき皮膚科

Q 先生の診療のモットーを  
教えてください

私の診察のモットーは「患者さんに合わせた最良の治療を提供する」です。皮膚に関する悩みは非常に個人的で、それぞれの患者さんが抱える問題や状態は異なります。そのため、一人ひとりに合わせたアプローチが必要だと考えています。

Q 先生の得意な疾患を  
教えてください

私は皮膚科・美容皮膚科の両方を診察していますが、特にニキビ、アトピー性皮膚炎などの一般的な病気やシミなどの美容に関する疾患に力を入れています。これらの疾患は多くの方が抱える問題であり、適切な治療とケアによって生活の質を高めることができると信じています。

Q 今後どんな医院に  
していきたいですか

今後は、より多くの患者さんに安心して治療を受けていただけるようなクリニックを目指しています。具体的には、最新の医療機器を導入したり、スタッフの教育を強化して、より高度な医療サービスを提供できるように努力します。また、患者さんがリラックスできるような心地よい空間作りも重視しています。

Q 患者さんに  
メッセージをどうぞ

皮膚に悩みを抱えている方は、一人で悩まずにどうぞ気軽にご相談ください。私たちは患者さんの悩みを聞き、最適な治療プランと一緒に考えます。皮膚の問題は早期治療が非常に重要ですので、何か気になる点がありましたら、お早めにご相談いただければと思います。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

いけがき皮膚科 茨城県古河市緑町 54-33 TEL.0280-31-1217